



最後まで聞く

校長 工藤 誠志

先日、児童生徒の後期学習や年度のまとめの評価を見ました。評価は、一人一人の子供たちの成長そのものです。評価の中で、印象に残った表記を紹介します。

＜評価の抜粋＞

- ・ 「ほくやります」「ほく分かります」「ほくもっとやりたいです」と言えるようになって…。
- ・ 「ごめんね」「ありがとう」って言えるようになりました。
- ・ 「やってみようかな」と意欲で…。
- ・ チャレンジして、何度でもトライするようになって…。



子供の顔や動作が思い浮かび、うれしくて笑顔になっている自分に気が付きました。どの表記も子供が、前向きで意欲的に学習に取り組んでいる姿です。毎日の学習活動の積み重ねで成長しているのです。こんなにうれしいことはありません。この評価を早く保護者の皆さんにお届けしたい気持ちになりました。評価を持ち帰ったら家族でお子さんの成長を確認してください。

ここでお願いがあります。お子さんが、頑張ったことを話したり、動作で表現したりする機会を用意してほしいのです。お子さんに「どんなことを頑張ったのか教えて？」と聞いてみてください。そして、お父さんやお母さん、家族はその話をしっかり最後まで聞いてほしいのです。

聞くときには、大事なことが3つあります。1つめは、途中でさえぎらずに聞くことです。聞いている途中で話の間違いや答えが分かったとしても、途中でさえぎらずに最後まで聞くことを心掛けましょう。動作で表現しているときも同じです。大人が先読みをして話すのは我慢してください。話している子供は、自分の思ったことや考えを聞いてほしいと思っています。十分に聞いた後に「今ならいいかな」と思ったときに「そうなんだ」「分かったよ」と伝えてあげると、自分の気持ちを聞いてもらえた後だから、安心して家族の話をよく聞いてくれるようになります。

2つめは、うなずきや相づちを活用して試みるのが大事です。子供が話をしている間に返事をしないと、相手がちゃんと話を聞いてくれているのか分からないこともあります。相づちは、「そうなんだ」「ふーん」「そうなの」「そうだったんだね」「それで」などと同じような言葉でも、言い方によって違うように聞こえてきます。じっくり聞いて、落ちついて、ゆっくりと、うなずきと一緒に相づちを打ちましょう。

3つめは、子供の言葉を復唱する「オウム返し」をすることです。子供の言葉を言い返すことで、「ああ、自分の言ったことが分かってもらえた」と子供は感じます。こうして聞くことに気を付けてみるとなかなか難しいものだということが分かります。

お子さんといろいろな話ができるといいですね。

あと少しで令和4年度が終了します。

保護者の皆様におかれましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策など、本校の教育活動への御理解御協力を賜りまして、厚くお礼申し上げます。